

risei + trip

vol.
24



特集

プレテストって何？

プレテストって何？

毎年4月、本校の奨学生を選考・採用する

「履正社特別奨学金制度（プレテスト）」の受付が始まる。

この制度には、他の学費サポート制度にはないメリットがある。

実際にプレテストを利用し、入学した先輩たちの声を聞いた。

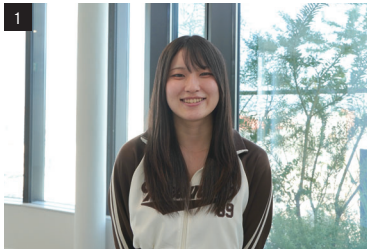


photographs by Naohiro Kurashina

プレテストで適用されるサポート制度

スポーツ奨学生制度	初年度納付金最大78万円減免
or	
国際奨学生制度	初年度納付金10万円減免
or	
医療奨学生制度	初年度納付金10万円減免

※2026年度実績



1「プレテストで早めに進路が決まったので、入学前に基本的な医療用語を学んでおくなど、準備ができました」と話す柔道整復学科の松田三奈さん 2ソフトテニスコースの清家蒼さん。高3の夏はインターハイに集中できるよう、春に選考を受けられるプレテストを利用した

「履正社特別奨学金制度（プレテスト）」は、選考結果に応じて納付金が最大78万円減免される、返還不要の奨学金制度。本校の奨学金の中では、サポート額が最も大きい。申込期間は例年4～5月。6月中旬には採用可否が決定する（採用決定後、総合型選抜《AO入試》へのエントリーが必要）。10月頃には、進路が決まる点の特長だ。

選考方法は学科コースによって異なり、書類選考のほか、面接や実技、小論文などがある。高校時代の取り組みや本校入学後の学習意欲が選考のポイントとなる。医療やスポーツの世界で活躍したい。そんな夢に向かう人の背中を押す、学費サポート制度だ。

プレテストを利用したのは、どんな人だろうか。先輩たちに話を聞いた。

「プレテストがあるから、行かせてほしい」

柔道整復学科1年の岡田愛梨さんは、プレテストが学校選びの後押しになった。

「柔道整復師の勉強ができる専門学校に行こうと決めた後で、履正社ならアスレティックトレーナー（AT）も同時に学べると知ったんです。どちらも学びたい気持ちが強かったので、すぐに履正社の入試方法や奨学金のことを調べて『プレテストという奨学金制度もあるから、行かせてほしい』と家族を説得しました」

岡田さんが選んだカリキュラム「医療＋AT」は、プレテストで採用されれば納付金減免のサポートを受けられる。総合型選抜（AO入試）では減免の対象外となるカリキュラムのため、注意が必要。

プレテストでは早めに進路が決まるため、岡田さんは精神的にも余裕が持てたという。「残りの高校生活、めっちゃ楽しめました」と笑顔がこぼれた。

鍼灸学科1年の淵原秀斗さんも、鍼灸師、AT両方を3年で学べる「医療＋AT」制度に惹かれた。

「大学なら4年必要なところ、1年早く社会に出られるのでメリットは大きいです。そのうえ、プレテストで採用されれば10万円の減免がある。進学先を決めるきっかけになりました」

淵原さんは関東からの進学組。プレテストで年内に進路を決められたため、物件探しや引っ越しなど、余裕を持って入学準備を進めることができた。

違いを調べたからこそ、決められた。

一方で、プレテストに4月にエントリーするには早めの進路検討が必要だ。

理学療法学科1年の中山恵莉奈さんは、元々大学への進学を考えていた。

「高校1年生の夏、長年続けていたバレーボールでケガをし、理学療法士さんにお世話になりました。その時、理学療法士という職業に興味を持って。その方から話を聞き、専門学校という選択肢が生まれました」

早速、大学との違いを調べ、実技の豊富さに惹かれて進学先を専門学校に決めた。理学療法士になるには、「実技の量が重要」と言われたことが印象に残っていたからだ。将来はスポーツに関わりたという思いがあり、競技系のコースもある履正社専門に進学を決めた。「自分でしっかり比較したことで、学校の先生にも、大学ではなく専門学校で学びたい理由を伝えられました。高2で進学先を決めていたので、4月になってすぐプレテストにエントリーしました」

今回取材した学生全員に共通していたのは、「勉強は大変な時もあるけれど、楽しい」と語っていたこと。夢に向かって学ぶ日々が、いかに充実しているかが伝わってきた。それは自分が学びたいこと、興味のあることに向かい合い、進路や入試方法を選んだから。進みたい道が見つかったら、その実現にぜひプレテストを役立ててほしい。